

市民の声を届けて 2月議会質問

3月2日、東市議は2月定例市議会で個人質問に立ちました。写真は南区飽浦問題で現地の地図を示しているところです。



飽浦無断開発の危険性除去に力をつくせ

南区飽浦の無断開発をいただきました。県の保安林を含む他人の土地まで勝手に切り開き、沢まで埋められた問題です。現場は土砂災害危険箇所です。下手に家が数軒あります。行政の責任で危険性を取り除くことを求めました。(詳細裏面)

効果不明の路面電車駅乗り入れ計画

市は路面電車を岡山駅に乗り入れる計画を立てています。2階に上げる案、平面のまま乗り入れる案、地下に入れる案、駅から歩道橋のようなデッキをつける案です。東市議の質問で、乗客増の目途や経済の影響、財政

負担や事業の評価のしかたすら決まっていなかったとが明らかになりました。

路面電車が使いやすくなるのは悪いことではありません。しかし8年ぶりに市の借金が3千億を超える中で、最大46億円もの計画を十分な見通しのないまますすめるのはムダ使いになりかねません。

古い市営住宅に浴槽設置が実現!

古い市営住宅には浴槽がついていません。入居者が自費でつけ、退去時に撤去しなくてはならず、入居者の負担になっています。東市議は市が初めから整備することを求め、市は来年度入居者分から浴槽をつけること答弁しました。

管理業者の対応改善を

市営住宅の入居には連帯保証人が必要ですが、住民税の課税世帯でないとなれません。せっかく当選しても連帯保証人が見つからなくて入居をあきらめる人までいます。住宅課はやむを得ない事情があれば必要ないとしていますが、実際には窓口の指定管理業者はあくまで連帯保証人を探すことを求めています。東市議は対応の改善を求めました。民間に市営住宅の管理をさせていることそのものによる問題でもあります。

ひふく

一期目の四年を全力でかけぬけました。毎議会質問し、市民の声を届けてきました。東日本大震災から四年、災害から命を守る仕事はまだ半ばです。増税負担増の中、くらしを守る仕事があります。大事だと実感しています。引き続き岡山市南区でがんばりたいと思います。(東つよし)

あずま

東つよしの

奔西走



飽浦無断開発問題の解決を



森林伐採で 高まる土砂崩れの危険

児島半島の南区飽浦で無断開発問題が起こっています。昨年10月に太陽光発電のためと樹木の伐採を行ったのですが、勝手に県の保安林を含む他人の林まで伐採、重機でならし、用水につながる沢まで埋めたのです。写真は沢があったと思われる場所ですが、土や倒木が覆いつくしています。現地はハザードマップによると、土砂災害危険個所の土石流危険渓流流域である

り、埋められた沢は土石流危険渓流に、しもての地域には土石流危険箇所の保全対象区域が広がっており、数軒の民家があります。現在、埋められた沢の上流はせき止められて水が溜まり、土石流の危険性はさらに強まっていると考えられます。

土地を荒したものの勝ちでいいのでしょうか？

樹木の伐採の届出は平成23年に出されました。伐採の理由は駐車場、資材置き場にするというものです。現場へは他人の土地をつぶしながら作業していることから見ても、実際には伐採や開発は困難でした。届出の代表者氏名は、金甲山の違法建設残土処分問題の法人の代表と同じ名前です。

行政は実際の実行者も同一人物であると認識しています。伐採の届出時に行政は十分な警戒をすべきでした。金甲山違法建設残土問題は、



他人の山を勝手に切り崩した上に産廃を含む多量の土砂を積んだもので、市も警告を出した大事件でした。是正もされないままです。他人の土地を勝手に開発しても正せない、責任もとらせられずにやったもの勝ち。こんなことを許してしまつては、岡山市の中山間地は荒らし放題になってしまつと、東市議はうったえています。

未然防止のために 行政はあらゆる対策を

昨年8月の広島の土砂災害では、危険な斜面であつ

たのに対策を怠つた行政の責任が問われました。飽浦でも土石流の危険性が高まっています。無断開発の被害者に責任を負わせることがあつてはなりません。行政が行うべきは、実行者に原状回復等の責任を取らせること、そして強制執行を含む土砂崩れ防止の対策をいち早くとることではないでしょうか。

東市議は市議会の質問で、実行者への対応と未然防止策を市に強く迫りましたが、市は「土地境界未確定の部分が有り、そこをまず確定させる」「境界が確定したらそれぞれの所有者にしかるべき対応をする」との答弁を繰り返しています。

東市議は今後、市の関係部局と関係住民との間で話し合いの場を持って実態を伝えるとともに、対応を協議する予定です。